

平成 29 年度外交・安全保障調査研究事業費補助金（発展型総合事業）
「安全保障政策のボトムアップレビュー」内サブ・プロジェクト
『不確実性の時代』の朝鮮半島と日本の外交・安全保障」研究会

1. 概要

北朝鮮が日本をも攻撃しうる能力をいっそう進展させ、のみならずその「成果」を自ら誇示している現状は、日本がもはや朝鮮戦争当時のような「安全な後方基地」とはなりえないことを意味している。また韓国において、折からの政治情勢の変動、対北政策や THAAD ミサイル配備をめぐる対中関係の緊迫化と米トランプ政権の発足が相互作用し、結果的に米韓同盟の動揺が憂慮される事態にまで至っていることは、ときに「疑似同盟」と表現されながらも着実に強化され、地域の公共財として機能してきた日米韓の安全保障協力の行方に必然的に影響を及ぼすこととなる。このように朝鮮半島は日本の外交・安全保障政策を考える上で最もかかわりの強い地域のひとつであり、各分野における最新動向を分析するとともに、常にそれを「アップデート」していくことが、政策的観点から重要となる。

ただし、このような日本にとっての朝鮮半島の重要性は、観察者に対して、その最新動向への関心を惹起する作用を及ぼすとともに、ともすれば単に折々の現状を描写することをもって事足りると認識させる可能性、あるいは特定の 이슈にのみ注意を集中させ、他分野・他地域・他領域との相関関係に対する意識を希薄なものにしてしまう可能性をも内包したものでもあり、その結果として、知識が相互に結合することなく断片化し、政策的インプリケーションにも影響を及ぼす事態も懸念される。

このような点を鑑みると、社会的関心の高さに満足することなく、「精緻さ」と「各分野を一体的なものとしてとらえる広い視野を両立させて臨む姿勢」が朝鮮半島情勢を見る上で求められており、また、それを通じてさらなる政策的示唆を引き出すアプローチが重要になる。

この問題意識を充足するため、本研究会では朝鮮半島情勢を取り上げるにあたって、日本に特に大きな影響を及ぼす（社会的関心も高い）テーマとして「韓国の政治・経済・外交の動向」「北朝鮮の脅威の実態と対応方案」「対北朝鮮経済制裁の実効性と課題」の 3 領域を設定し、それぞれに対して重層的な分析を施していく手法を採用する（なお全体的な問題意識を維持しつつ、現実の展開に即した分析・考察を実施できるよう、「領域」は必要に応じ年度ごとに微調整・再設定する）。

各領域において、それ（ら）を構成する個々の分野に対してのみならず、ある分野の動向が他分野に及ぼす影響や分野間の相互作用にも目を向けて「像」を描出せんとする点が本研究会の特徴であり、また、このような研究活動を通じて、日本の外交・安全保障政策のニーズを「内」と「外」の両面から検証し、蓄積していくとのプロジェクト全体の目的に貢献することに、本研究会の眼目がある。

2. 研究体制（敬称略）

<主査>

全体総括：小此木政夫（慶應義塾大学名誉教授）

<委員>

「韓国の政治・経済・外交の動向」部会

韓国内政分析：奥藪秀樹（静岡県立大学准教授）

韓国経済分析：深川由起子（早稲田大学教授）

韓国外交分析：西野純也（慶應義塾大学教授）

韓国の安保政策（特に対北安保）：渡邊武（防衛研究所主任研究官）

「北朝鮮の脅威の実態と対応方案」部会

北朝鮮内政分析：平井久志（共同通信客員論説委員）

北朝鮮外交分析：伊豆見元（東京国際大学国際戦略研究所教授）

北朝鮮外交分析（特に軍事・安保分野）：倉田秀也

（防衛大学校教授／日本国際問題研究所客員研究員）

韓国外交分析（特に安保分野）：阪田恭代（神田外語大学教授）

「対北朝鮮経済制裁の実効性と課題」部会

北朝鮮経済分析（全般）：三村光弘（環日本海経済研究所主任研究員）

制裁全般および対北制裁分析：古川勝久

（元国連安保理北朝鮮制裁委員会専門パネル委員）

中朝関係分析（全般）：平岩俊司（南山大学教授）

中朝関係分析（特に制裁関連）：堀田幸裕（霞山会研究員）

北朝鮮経済分析（国内）：飯村友紀（日本国際問題研究所研究員）

<委員兼幹事>

相航一（日本国際問題研究所所長代行）

中川周（日本国際問題研究所研究調整部長）

飯村友紀（日本国際問題研究所研究員）

以上

研究会の実施状況

第一回会合：

日時・場所：2017年5月29日・於当研究所

テーマ：研究プロジェクト趣旨説明・担当パートおよび年間スケジュール等の確認

第二回会合：

日時・場所：2017年6月30日・於当研究所

テーマ：「制裁下における経済運営の一考察—『対制裁シフト』の観点から—」
「韓国大統領選挙と文在寅政権の展望—内政を中心に—」

第三回会合：

日時・場所：2017年7月27日・於当研究所

テーマ：「文在寅政権の政治と外交—就任2ヵ月の評価と展望」
「北朝鮮のICBM発射と中朝関係」

第四回会合：

日時・場所：2017年9月7日・於当研究所

テーマ：「国防と統一における文在寅政権の自主」
「北朝鮮の核問題と中国の制裁対応」

第五回会合：

日時・場所：2017年10月5日・於当研究所

テーマ：「北朝鮮の核態勢とエスカレーション・ラダー—「対兵力強迫観念 (Counter-force Compulsion)」—」
「北朝鮮の国内政治 (2017年の動きを中心に)」

第六回会合：

日時・場所：2017年10月30日・於当研究所

テーマ：「北朝鮮外交分析」
「北朝鮮の核・ミサイル危機と日米韓協力」

第七回会合：

日時・場所：2017年11月28日・於当研究所

テーマ：「北朝鮮経済の現状と「不確実性」」
「文在寅政権下の韓国経済：地政学リスク、構造転換の出口を求めて」

第八回会合：

日時・場所：2017年12月15日・於当研究所

テーマ「制裁全般および対北制裁の分析」
「講評：北朝鮮の核ミサイル問題—四つのシナリオ」